

# 白

虎隊で知られる會津。會津藩がふるさとを守るため

16〜17歳の武家の男子で編成した精銳部隊。だが、戦線は芳しくなく自刃へと追いつめられてゆく悲劇。舞台となった飯盛山はいまも線香が絶えない。その飯盛山のほど近くに観光名所の「武家屋敷」がある。当時の武家を何棟か移設、一堂に集めて屋敷風に仕立てたもの。じっくり見て回ると2時間ほどかかるが、往時の武家の暮らしぶりや子供の躰にもなかなか厳しかった様子が伝わってくる。

突然、見学中の小学生のグループから声がかかってきた。「すみませくん。これ食べてみてください」。両手に収まるほどの大きさの紙袋。「庄内米『はえぬき』とある。試食米だ。手作りのパンフレットも付いていて、一つは「すばらしい酒田スポット」。もうひとつは「庄内米のひみつ」。早速ひも

とくと、最初に「山居倉庫（さんきょうそうこ）」とある。武家屋敷のコメ蔵のように横に何棟も並んでいて、1893年というから明治時代後期にできた倉庫群だろう。

現在も農業倉庫として活躍中だそう。コメの品質保持のため、土壁をベースに屋根に空間



## 庄内米を担う若くは使者

をとるなど風通しをよくする工夫が施されているという。

山形県の日本海側に位置する庄内平野はわが国有数の穀倉地帯。コメづくりやその加工、保管技術がいまも実物とともに脈々と受け継がれているのだ。そこで子供たちも地元PRの担い手として一役買おうと、隣県の

福島まで「出張」して役割を果たしていたわけだ。政府は挙げた「ふるさと創生」に取り組んでいるが、こうした地域一体となった地道な取り組みが大きな成果となって実を結んで行くことになるのだろう。そして、将来を担う子供たちが郷土を愛し、郷土に誇りを持つことが

「美しいニッポン」の再構築に繋がって行く。

もう一つのパンフレット「庄内米のひみつ」によれば、庄内米には「はえぬき」「つや姫」「雪若丸」「コシヒカリ」「ササニシキ」「ひとめぼれ」「どまんなか」などのブランドがあった、これらを原料にカステラ、

クッキー、かりんとう、ラーメンなども生産されているという。

わが国の食糧自給率は50%に届かない。そのなかでコメは100%の自給率を維持している。もつとも、前回昭和39年の東京オリンピック当時ごろでもコメは恒常的に不足で、政府管理の統制品であった。それがその後、余剰になって昨今ではスーパーの安売りの目玉商品になっている。往時の人が聞いたらビックリして腰を抜かすほどの「大事件」だろう。

物は5%不足すると価格が高騰し、5%余剰になると暴落するということ。これを回避する知恵や手法を持たないと地域も産業も行き詰まる。會津で出会った酒田・浜田小の子供たち。ふるさとに対するこの子供たちの熱い思いと意気込みが5年後、10年後どのような形で花開いているか。この目でぜひ、確かめてみたいと思っただ次第である。